

2月5日、京都の自衛隊員が イラクの戦場へ出発

自衛隊はイラクから直ちに撤退を

2月5日、陸上自衛隊中部方面隊から自衛隊員がイラク・サマーワへ派遣されました。大久保・桂・宇治・福知山の自衛隊員も参加。『引き留める子どもを振り切るようにして、飛行機に向かう派遣隊員』の姿が新聞報道されていました。



広がる家族・友人の心配



派遣される隊員の家族や友人のみなさんのご心配は、例えようのないものと思います。

誰が見ても、「非戦闘地域」でないサマーワへの派遣は、イラク特措法に反するものです。

国民の多数は支持しない

毎日、日経、朝日、NHK どの世論調査でも、自衛隊のイラク派兵反対は、60%～70%と国民多数の声です。

それもそのはずです。イラク国民は、無法な戦争と軍事占領を拒否しているからです。



だから、イラクに派兵した36カ国のうち16ヶ国が撤退ないし、撤退表明をし、次々帰国しています。

いまイラクでは、米軍によって住民が虐殺されています。米軍を支援する日本政府の責任は重大です。

「自衛隊はイラクから直ちに撤退せよ」の声を大きくしましょう。

イギリスBBC放送は、イラクのファルージャでの米軍による無差別攻撃で、6000人もの死者と報道しました。「死体があまりにも多いため、町の中を移動するのも困難だ」と伝えていきます。また、別のジャーナリストは、ユーフラテス川に米軍が遺体を遺棄しているとも伝えていきます。

この虐殺作戦には、沖縄海兵隊が中心部隊として参加しています。

京都自治労連

電話 075-801-8186

引き留める子どもを振り切つて